

<様式>

学校名	山形市立高楯中学校 山形市大字中里38番地 TEL: 686-6029 / FAX: 686-4185	校長	星川 仁一
		研究主任	小川 健吾
研究主題	よりよく生きるために学びを深め合う生徒の育成 (1年次) ～ I C Tの効果的な活用を通して～		
研究主題設定の理由	<p>1. 学校教育目標から 本校では令和元年度より、「ふるさとを愛し、未来に向かって、明るくたくましく生きる情操豊かな人間の育成」を学校教育目標として掲げ、時代の変化と地域の期待に応える教育活動を行っている。学校研究でも、学校教育目標を受けて同年度より4年間「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成」を研究主題として設定し、各教科の実践を通して研究を深めてきた。重点としては、「主体的」な学びに導く課題設定や課題提示、「協働的」な学び合いに関わる指導過程の工夫、「振り返り」の工夫を視点として授業を展開してきた。また、G I G Aスクール構想のもと進められた「1人1台の端末」は授業改善のための大きな手助けになったこともあり、直近の2年間は「I C Tの効果的な活用」を意識して研究を進めた。昨年度は副題としても掲げて取り組んだところである。これら3つの視点および「I C Tの効果的な活用」からの学校教育目標の具現化へのアプローチを通して、授業改善および生徒の変容の手ごたえを感じている。</p> <p>2. 生徒の実態から 本校の生徒は素直で前向きに取り組める生徒が多く、授業、生徒会活動、行事ともに仲間と協力しながら取り組んでいくことのできる生徒たちである。また、前年度までの研究を通して、生徒の課題に対する向かい方、生徒同士の学び合いなど、学びに向かう姿勢は確かな形で育まれている。I C Tの利活用についても、調べ学習、交流学习、発表と多様な場面での活用を経験してきており、I C Tの利点について認め、進んで活用しようとする姿が見られる。 一方、課題を深く追究したり、社会や自然など日常生活と結び付けて考えたり、広げ深めたりすることは苦手としている生徒が多い。I C Tの活用でも効果的な活用のためのスキルはまだ不足している分野も多いのが現状である。</p> <p>3. 今日的な課題から 現代はグローバル化、デジタル化など急速に変化する社会となっている。生徒を含め現代を生きる私たちの周りには様々な課題があり、私たち自身がともに手を携えてその解決に当たっていくことが求められている。学習指導要領の趣旨である「主体的・対話的で深い学び」もこの流れを汲むものであり、生徒同士が多様な考えを出し合って協働的に学び、自分の考えを広げ深める学びを通しながら、課題の解決に向かっていく力を育むことは、現代の社会を色濃く反映した学びの姿といえる。 そして、本質的な課題には世界との関わり、歴史的な出来事、私たちを取り巻く環境や変化、その他の背景になるものが多くあることが見えてくる。そんな中で、日常生活や、私たちを取り巻く事象としっかり向き合って「深く」考えることこそ、課題解決に向かってじっくりと考えている姿と言えそうである。 これら3つの視点から判断し、本校での研究主題を『よりよく生きるために学びを深め合う生徒の育成～I C Tの効果的な活用を通して～』(1年次)として定めたところである。</p>		

研究の目標

主体的・協働的な学びを通して課題を解決し、よりよく生きていくための「深い学び」に向かう生徒を育てることを目標とする。そのために深い学びの姿を分析してとらえ、「深い学びに導くためのよりどころ＝資料や手立て」を明らかにしながら、授業改善を通して生徒の変容を追求していく。

研究の内容

視点に沿った実践を集め、その方法を共有することで授業改善に努める。視点としては、これまでの研究の実践をいかしながら、次のように考える。まずは、授業づくりの核となる「学習課題」について、そして、「深い学びのよりどころ」について、最後に、「学び続けるための力」。大きく「興味・関心」にかかわるもの、そして、教科の本質となる「資質・能力」の中心、「学びに向かう力」の3つを柱として考えた。

※視点1 深い学びに導く課題設定 ……………興味・関心

- 実生活や実社会との関連を図った課題
- 生徒の興味・関心、疑問に基づいた課題

- ・魅力的な課題であるか。
- ・必要感や有用感があるか。
- ・既習事項に基づいた課題であるか。

- ・ICT機器を活用して視覚化している。
- ・学ぶ意欲を高める提示の工夫をしている。

- 令和4年度までの工夫点を継承
- ①教科の本質に即した「魅力ある多様な課題」の設定
- ②必要感や有用感がある「学習課題」の設定
- ③生徒の「興味・関心、疑問に基づいた課題」の設定
- ④「日常生活との関連を図った課題」の設定
- ⑤既習事項やレディネスに基づいた課題の設定
- ⑥ICT機器を活用して導入を工夫した課題の設定
- ⑦学ぶ意欲を高める提示の工夫をした課題の設定

※視点2 深い学びに導くよりどころ ……………知識・技能、思考・判断・表現

- 身近なもの、生活、現象とのつながり
- 時代背景、文化的背景などの裏付け
  - ・3年生の国語では『故郷』という戦時下における中国の時代背景と結び付けることで作品をより深く理解できるように導くことができる。そのように教科の特性に応じて、いわゆる背景と言われるものとのつながりをもたせて深めていくことができないか。
- 教科横断的なつながり
  - ・カリキュラムデザインに基づいて、教科間の連携を図りながら単元を構成し、統合的な学習に近づけていくことができないか。

※視点3 学びに向かう力 ……………学びに向かう力・人間性

- 意欲を育み、持続させるための手立て
  - ・課題設定時における意欲付けとは別に、展開部分での意欲の持続のための工夫があるのではないか。
  - ・学習計画や学習の振り返り、認めとともに主体的な学びを促すための工夫があるのではないか。
- 学びの方向を修正しながら学び続けるための手立て
  - ・単元全体における現在位置の確認や振り返りなどを通して、学びの方向をとらえなおす工夫があるのではないか。

研究の方法

1. 各教科では、他教科との関連を見通した年間指導計画と深い学びの実現のための授業場面の創造の視点からの単元を構成をする。
2. 担当教科のどの単元について研究を進めていくか各自決定する。年度末の研究のまとめでは、単元の構想、指導計画と研究成果などを紀要に掲載する。
3. 研究する単元の探究的な学習の構想を「単元計画」として示し、その中の1時間を研究授業として提案する。その際、研究の視点からのアプローチを本時の中に示すようにする。
4. 授業研究会では、可能な限り助言者・研究協力者の先生から助言を得て、授業改善に努める。
5. 小研は教科群ごとに事前研を行って研修を深めるようにする。
6. 小研においては期間を定め、時間を複数時間に分けて実施することで、多くの授業を参観できるようにする。
7. 前期・後期に分けて小研をもち、教科群で前期または後期を分けて実施する。
8. 日常からの授業改善のために、教科群を中心としてグループを作り、普段の授業から参観しながら研修を深める。

1		2		3		4	
国語		社会		数学		理科	
二藤部	三宅	小川	鎌田	富樫	神保	根本	原田
5		6		7			
英語		音楽	美術	保体		技・家	
齋藤	東海林	多田	長谷川	清水	黒沼	武田理	

9. 授業研究は教科グループの配置および人数を考慮してのローテーションを検討する。

	2023	2024	2025	2026	2027	2028
国語	○	○		○		○
数学	○		○	○		○
美術・音楽	○美術		○音楽		○美術	○音楽
社会	○		○		○	
理科		○	○		○	
技家・保体		○技家		○保体	○技家	
英語		○		○		○

国語・数学・〔美術・音楽〕・社会・理科・〔保体・技家〕・英語→

※今年度から以下のローテーションでまわしていく

	1		2		3		4		5		6	
回												
	国語		理科		数学		保体		美術		国語	
	数学		技家		音楽		英語		社会		数学	
	美術		英語		社会		国語		理科		音楽	
	社会		国語		理科		数学		技家		英語	
年度	2023		2024		2025		2026		2027		2028	

研究の計画

日付	研究内容	
4 / 5 (水)	研究推進委員会①	推進委員会
4 / 6 (木)	校内研究会① 今年度の研究の方向性、研究計画	研究会
4 / 27 (木)	研究推進委員会② 6月の授業研に向けての準備	推進委員会
5 / 中旬	生徒の実態調査 学習アンケート①	実態調査
5 / 22 (月) ～ 6 / 8	小研ウイーク (深い学びに導く課題設定の工夫・深い学びに導くよりどころの検証・学びに向かう力の底上げのための工夫)	グループ研
6 / 8 (木)	校内研究会②授業 (深い学びに導く課題設定の工夫・深い学びに導くよりどころの検証・学びに向かう力の底上げのための工夫)	研究会
7 / 10 (月)	生徒の実態調査 学習アンケート②	実態調査
8 / 1 (火)	校内研究会③ 外部講師による講話	研究会
8 / 18 (水)	研究推進委員会③ 9月の授業研に向けての準備	推進委員会
8/28～9/14	小研ウイーク (深い学びに導く課題設定の工夫・深い学びに導くよりどころの検証・学びに向かう力の底上げのための工夫)	グループ研
9 / 14 (木)	校内研究会④授業 (深い学びに導く課題設定の工夫・深い学びに導くよりどころの検証・学びに向かう力の底上げのための工夫)	研究会
9 / 19 (火)	研究推進委員会④ 10月の授業研に向けての準備	推進委員会
10 / 18 (水)	校内研究会⑤授業 (深い学びに導く課題設定の工夫・深い学びに導くよりどころの検証・学びに向かう力の底上げのための工夫)	研究会
12 / 20 (水)	校内研究会⑥ これまでの実践報告、研究紀要「大岡」の編集	研究会
2 / 13 (火)	研究推進委員会⑤ 次年度の研究の内容と方法	推進委員会
2 / 21 (水)	校内研究会⑦ 今年度の成果と課題、次年度の研究主題と内容・方法	研究会